

6. 生活をささえ、生き方を変えるデザイン

骨折してギブスをはめても、松葉杖を使えば学校にいくことができます。このように、からだが思うようにうごかなくなったときでも、「もうできない」とあきらめてはいけません。なぜなら、ケガなどの障害でうしなっただからだのうごきを助けてくれる、いろいろな道具があるからです。使いこなすためには、練習や

人を元気にするステキな形や色

右の写真は、病気で半身がマヒしてしまった人の歩行を助けてくれる道具です。この「ゲイトソリューション・デザイン」は、はきやすさやスムーズに歩けるといった機能性を考えてデザインされています。たよれる安心感があり、かるくてじょうぶなチタンのフレームを使い、肌にふれる部分はやわらかく、やさしい装着感です。また、3色のなかから好みのスタイルをえらぶことができますし、いろいろなくつがはけるように、装着方法も考えられています。歩くことが楽しくなりそうですね。

車イス



(Photo :
FUJITSUKA MITSUMASA)

「至れり尽くせり」は
よくない！

からだを使わないようにしていると、もっている力がおとろえてしまうこともあります。障害のある人も、適度に自分の力を使うことは、体のはたらきがいま以上にわるくなることをふせぎ、病気の予防にもつながるのです。

努力も必要ですが、自分のからだや好みにあったステキな道具に出会うと、気持ちがあうかされて元気がわき、それを使ってさまざまな障害をのりこえることができます。そのよこびや自信が、それぞれの人の生き方までもかえるのです。

短下肢装具



左の写真は人工心臓やメガネをはじめとする、さまざまな製品で世界的に有名なデザインディレクター、川崎和男さんが開発し1989年に発表した「CARNA」という名前の車イスです。「スニーカーのような車イス」をめざして、身体保持と走行性能の機能性・収納性をもとめています。本体には軽量の素材のチタン、車輪にはアルミのハニカムコア、座面にはローホークッションを使用。発表後もつねに改良をくわえており、ニューヨーク近代美術館に永久展示されている作品でもあります。